



プロバスだよ

2009年 9月10日発行

東京八王子プロバスクラブ

創立 1995年 10月 18日

第166号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

編集・発行：情報委員会

2009～10年度テーマ **広げよう！ プロバスクラブの楽しみの『環』**

第 166 回例会

日時：平成 21 年 8 月 13 日 (木) 12:30～14:30

場所：八王子エルシィ

出席者：53名、出席率84%

(会員総数66名、内休会3名)

1. 宮城例会委員長の司会で定時に開会

例会に先立ち、池田ときえ会員による暑中見舞いの絵手紙が全会員に贈られました。

2. 会食

3. 下山会長挨拶



豪雨や冷夏、また地震と災害の伝えられている今年ですが、わがプロバスクラブ例会はいつもどおりお集まり頂いて開けたこと、ご同慶に存じます。今日は東京日野ロータリークラブから、後藤一郎様にお出でいただいています。9月に吉田信夫会員が、直江兼続の卓話に出かけられるので、東京八王子プロバスクラブをみておかれるためですが、のちほどご挨拶を頂きたいと思っております。お客様として、おなじみの南ロータリークラブの広瀬様もお見えです。

7月の総会で、全日本プロバス協議会の活動を説明しましたが、もう少し付け加えさせていただきます。今日本ではプロバスクラブは102クラブになり、3千名を越えた会員だと思われまます。全日本プロバス協議会は全く任意参加で、情報交換による交流促進が目的です。まだよちよち歩きで、立川会員から説明がありましたとおり、理事クラブ及び役員個人のボランティアに頼った部分も多い状態です。暫くこの状態が続くと思っております。しかし、どのような運動も、当初はその趣旨に情熱を持った方の献身によって発展するものでしょうか。その方々は後世にフロンティアと呼ばれるのかもしれませんが。

7月の総会で、全日本プロバス協議会の活動を説明しましたが、もう少し付け加えさせていただきます。今日本ではプロバスクラブは102クラブになり、3千名を越えた会員だと思われまます。全日本プロバス協議会は全く任意参加で、情報交換による交流促進が目的です。まだよちよち歩きで、立川会員から説明がありましたとおり、理事クラブ及び役員個人のボランティアに頼った部分も多い状態です。暫くこの状態が続くと思っております。しかし、どのような運動も、当初はその趣旨に情熱を持った方の献身によって発展するものでしょうか。その方々は後世にフロンティアと呼ばれるのかもしれませんが。

日本のプロバスクラブ活動はそのゆりかご時代から抜け出して、やっと独り立ちしつつあるところと思います。オーストラリアや、ニュージーランドのように10万人を越え、プロビアンツアー紹介やランデブーなどを実現するには程遠いわけですが、せめてプロバスクラブが各地に誕生することを願わざるを得ません。先輩クラブとして、ささやかでもその方向に進めるべきだと思っています。

又、まだ全国のプロビアンは3千名ほどであれ、出来る限りの方々と会員同士、皆さんがお知り合いになる機会を増やすべきだと思っています。それはプロビアン大きな喜びであり、知り合えば、次の発展に結びつく何かが起こる、と信じております。

今年11月に全国から理事の皆さんが来られるので、全国のプロビアンの一部と会員の皆様が懇談する機会をもてます。これは大変良い機会だと思っています。私はこのような考えを持っていますので、蛇足ながら伝えさせていただきました。よろしくご理解をお願いします。

最後に規約改定についてご説明します。最初は少人数で検討し、理事会、その他のステップを経て、年度末までに纏めたいと思っています。検討委員会のメンバーは、宮崎元会長、矢島前会長、荒幹事、武田会員、澤渡会員、下山の6名です。

4. お客様紹介・ご挨拶

東京日野ロータリークラブ

プログラム委員長 後藤 一郎様



貴クラブの杉山さんから、八王子プロバスクラブは良いクラブとの紹介を受けていました。仕事でも人生でも豊かな方が多くおられ、卓話講師の人材も豊かと伺って

りました。私はプログラム委員長、会報委員長をつとめており、すでに吉田さんには直江兼続のお話を

ご依頼してございますが、今後ともお願いしたいと思っております。ご支援の程よろしくお願ひいたします。

東京八王子南ロータリークラブ

元会長 広瀬 武彦様

5. 幹事報告 荒幹事

(1) 会員動向 総数66名。出席率84%

(2) 委員会懇談会が86%の出席率で、7月末までにすべて終了し、今年度の委員会は順調にスタートを切ることができました。



(3) クラブ創立15周年事業の準備会も7月23日第1回会合が開かれスタートしました。

(4) 規約の見直しを検討する小委員会についても人選が決まり、9月から作業が始まる予定です。

(5) 第68回国民体育大会が平成25年に東京都で開催されます。八王子では、サッカー、体操、自転車(ロードレース)、軟式野球、ゴルフ、高校硬式野球の6競技が実施されます。このための「準備委員会」が設置され、委員に当PCから下山会長が就任いたします。なお当PCから塩沢迪夫会員、杉山友一会員、立川富美代会員がそれぞれ所属する団体から委員に就任されます。従いまして、大会には会員の皆様へ協力の要請があるかと思ひます。そのときはよろしくお願ひします。

(6) 本日卓話を予定している吉田信夫会員が、東京日野ロータリークラブで、9月2日に卓話を行ないます。

(7) 別冊歴史読本『ハプスブルク王家』、この中に堀口進会員が「黒髪伯爵夫人クーデンホーフ光子」を執筆しております。

(8) 広瀬智子会員から、「人権ふれあい写真の募集」の案内がありました。締切は9月30日。詳細は、各市民センターで応募ポスターを御覧下さい。

(9) サークル活動の連絡・報告について

今回より、通常の例会議事運営を円滑にし、卓話の時間を十分に確保しようということになりました。従いまして、個別のサークル活動の連絡や報告については書類などで、或いは、例会とは別の時間で行なっていただきたいと思ひます。ただし、プロ

バスクラブ全体にお知らせするような行事などに関わるときは、時間を取れるように致しますので了解ください。

A ゴルフ同好会

9月25日のコンペ、お申込み本日に中

B お茶同好会 連絡事項なし

C 囲碁同好会

10月30日～31日 藤野陣谷温泉にて一泊の囲碁大会を開催します

D 写真同好会 連絡事項なし

E 歴史の会 連絡事項なし

6. 各委員会報告

(1) 例会委員会 宮城委員長

本日の出席は53名、出席率は84%です。

(2) 情報委員会 竹内委員長

プロバス日より165号を本年度第1号としてお届けしました。お読みいただき、お気づきの点をご指摘ください。読んでいただける会報にしていきたいと思ひています。

(3) 会員委員会 岡本委員長

現在会員総数66名、1名の入会希望者がおられます。各位には更なる会員増強のご協力をお願ひ致します。

(4) 研修委員会 佐々木委員長

プロバスクラブ同好会拡大のためのアンケート調査をすることにしました。ご協力ください。本日もしくは来月の例会までに提出をお願ひします。

(5) 地域奉仕委員会 堀口委員長

7月例会にてお願ひした本年度の生涯学習サロンのアンケート、本日提出をお願ひします。アンケートを集約して第14回生涯学習サロンのテーマを決めたいと思ひます。野外サロン、開講式、閉講式についても、順次まとめて報告いたします。

(6) 交流担当 山崎理事

11月16日に行なわれる第2回全日本プロバス協議会理事会総会・交流会が、八王子京王プラザホテルで開催されます。開催案内を来月の例会にてお配りします。

7. その他

石田雅巳会員より、「脳卒中を知る」のテーマの催



しの紹介がありました。

期 日：9月17日

場 所：東急スクエア

主 催：NPO法人

東京多摩リハビリネット

参加費：無料

FAX申込み：0425-669-4579

8. 卓話『NHKでは聞けない天地人』

吉田 信夫

1 はじめに

直江兼統は、越後で育ち、会津を経て、米沢で没している。それ故、上杉家の資料の大半は、越後から米沢に移っているため、それを利用しやすい米沢や、兼統の出身地の地元の人達による著書が多い。米沢には「直江会」という直江兼統を研究する会や、兼統の漢詩を楽しむ人たちなどがある。

私が直江兼統を調べる上で、特に参考になった本は、『直江兼統』（米沢市上杉博物館発行）である。この本は、直江兼統に関する古文書を写真で掲載し、文章を活字にし、解説したもの。

史実の根拠が明確で、他の歴史書に安心して取り組む事が出来た。

2 直江兼統について

(1) 兼統の記録



「上田士籍」

① 1575年（天正3）兼統16歳の時、景勝譜代長柄組30人の中に樋口与六の名がある。

② 1580年（天正8）泉沢久秀書状に、「足軽衆に給付する米に関する指示が、与六からなされる」との記録がある。これが兼統の活動を示す最初の史料である。

(2) 御館の乱（上杉第1回目の危機）

① 1578年（天正6）上杉謙信の死後、上杉景勝と上杉景虎との間で、後継者争いが起る。当初景虎は、北条と武田を味方に有利であったが、景勝は武田勝頼と講和を結び、武田を味方にして、景虎に勝ち、越後を統一した。

(3) 織田信長との戦い（上杉第2回目の危機）

① 景勝が御館の乱に、注力している間に、織田信長は武田勝頼を滅ぼし、新発田重家も味方にし、越後を包囲した。

② 1582年（天正10）本能寺の変で、織田信長が明智光秀に殺されると、織田勢は兵を引き、上杉は危機を脱した。

(4) 豊臣秀吉の天下統一

① 織田信長の死後、秀吉が勢力を拡大すると、景勝は秀吉に臣下の礼を取る。

② 1589年（天正17）景勝は、秀吉から、佐渡、信濃、出羽の所領を許され、越後を含め所領は90万石となる。

③ 1590年（天正18）秀吉は、北条氏を滅ぼし天下を統一する。

④ 1598年（慶長3）景勝、越後から会津120万石に移封を命ぜられる。

(5) 徳川家康の天下統一

（上杉第3回目の危機）

① 秀吉の死後、徳川家康が勢力を拡大した。上杉景勝は、会津での新城構築や軍事強化に努めた。家康はこれを咎め、「上洛の上、申し開きをせよ」と迫ったが、景勝はこれを拒否した。（直江状）

② 1600年（慶長5）家康は上杉征伐のため、会津に出兵した。

小山にて、石田三成が大阪で挙兵したとの報を受け、西に戻った。

家康が、関ヶ原で石田三成の西軍を破り、天下を統一すると、景勝は家康に臣下の礼をとり、上杉は存続した。

(6) 米沢の街づくり

1601年（慶長6）上杉景勝は米沢30万石に減封された。当時1800戸位の米沢に、3万人に及ぶ人が移ってきたので、政は「街づくり」が中心となった。

(6) 文人としての直江兼統

兼統は景勝の宰相として、活躍したが、文人としても多大な業績を残した。

1588年（天正16）景勝第2回目の上洛の際、兼統は南化和尚に出会い、学問を開花させた。

① 朝鮮出兵の際、戦火にまみれたすぐれた漢籍や朝鮮古活字本を日本にもたらした。

② 京都で五山文学を学ぶと共に、日本初の銅活字本『文選』を出版した。

③南化和尚より、『古文真宝抄』、『濟生救方』を借り、書写した。また『史記』、『漢書』、『後漢書』(いずれも国宝)を譲り受け、後世に残した。

④詩人として、優れた漢詩を残した。

9. プロバスソング斉唱

10. 閉会挨拶 杉山副会長



今回の例会より、卓話を充実させようと研修委員長さんは気合が入ってその時間を長くしました。本日は吉田会員が「NHKでは聞けない天地人」のテーマで話をされ、これからのNHK大河ドラマが更に楽しみになってきました。平成25年の東京国体では、下山、塩沢、立川、杉山の各会員が準備委員で、活動します。皆様のご協力をお願いします。

<15周年事業準備会報告>

7月23日 第一回準備会開催、15周年事業の位置づけの確認と数点のイベント事業案他につき意見交換。併せて実行委員会委員長予定者(濱野幸雄氏)の推挙を確定した。

今後の日程については、8月20日 第2回準備会議、9月24日(予)第3回準備会議を経て、10月理事会の後、10月8日例会にて事業の種類、予算の概要を報告の予定です。

投稿 八王子落城

宮崎 浩平

8月例会の吉田会員の卓話「直江兼続」に関連して、八王子城の落城について記載いたします。天正18年(1590)6月23日(旧暦)、北条氏照の居城八王子城は豊臣軍の猛攻により、わずか一日で落城した。八王子城は小田原北条氏の代表する軍事拠点であり、北条氏照が自然を要害とした堅固を誇る雄大な山城として自負していたが、一日にして落城したのはなぜか。八王子城攻めは多数の兵力によって攻め落とされ、大変な激戦が行なわれた。攻撃する豊臣軍は加賀の前田利家を総大将に越後の上杉景勝、信州の真田勢、上州から北条の各支城を攻め落とした投降の兵を加え、2万5千とも3万とも云われている。対して八王子城側は城主氏照が精鋭を率いて小田原城にあり、八王子城を守っていたのは横地監物を城代として狩野一庵、近藤出羽、中山勘解由、金子三郎衛門などの老将に率いられた農民、職人、山伏などを中心とする人達や留守家族、人質、女、子供が多かった。それにしても八王子城が一日にして落城したこと

には、後日巷説などに伝えられているように多くの起因があった。

1. 無勢に多勢。城方2千に対し、攻め方3万といわれ、戦力において圧倒的な差があった。
2. 八王子城は未完の城であり、要害堅固な城であっても攻め手側に損傷覚悟にしての人海戦術に攻められ耐える事が出来なかった。
3. 守備側、攻撃側の戦意、士気に初めより大きな違いがあった。攻撃する北国勢は河越城(大道寺政繁)、忍城(成田氏長)、岩槻城(太田氏房)、鉢形城(北条氏邦)と北条氏の各支城を落としてきたが、その中で鉢形城の攻略に余に日々がかかり、豊臣秀吉の激怒を受ける事となり、攻撃側に強い意気込みがあり、一方守備側は城代横地監物が早いうちに逃亡したことにより城内は戦意を無くしたとも言われている。
4. 自然条件として6月23日は早暁より霧が深く近くの下一分村、四谷周辺にあった見張り台が北国勢の動きを捉えることに遅れがあった。
5. 城方に内通者があり、城内琵琶ヶ谷の指揮に乱れがあった。

等々、多くの古文書や古記録が残っている。それにしても、一日にして落城したのだから相当な激戦であり、悲惨であったことは間違いない。八王子城は、通常城主の家族や家臣団は麓の御主殿を中心に生活をしてきたが、この戦いにおいて居館の南側にある滝(御主殿の滝)の上で続々と自刃し、そのため城山川の水が三日三晩朱にそまつたとの言い伝えも残っている。八王子城の落城については、数多くの伝説や幽霊ばなしがあるが、徳川の時代に入り、八王子の町では大善寺が落城で戦死した人の霊を慰めるため、毎年お十夜法要が催され、昭和35年(1960)まで、以後300年余りも広く関八州に知れ渡っていたことは有名である。

編集後記；

天候不順の夏も盛りを過ぎようとしています。会員各位のご協力を頂き、「投稿」を順調に頂いております。現在原稿手持ち4件・投稿了承頂いた分5件があります。増ページの楽しみが出てきました。どしどしお願いします。 情報委員長